



令和5年3月10日(金)

「三寒四温」の日々

「三寒四温」という言葉、耳にしたことがある方が多いのではないのでしょうか？春先のイメージが強い気もしますが、実は元々冬の気候を示す言葉だそうです。冬の時期に寒い日が3日くらい続くと、そのあとに比較的暖かい日が4日続くという意味の言葉で、寒暖の周期を表しています。もとは中国の東北部や朝鮮半島北部で冬の気候を表す言葉として用いられたそうです。冬のシベリア高気圧から吹き出す寒気が7日ぐらいの周期で、強まったり弱まったりすることに由来する言葉とされています。

日本では早春になると低気圧と高気圧が交互にやってきて、低気圧が通過し寒気が流れ込んで寒くなった後、今度は高気圧に覆われて暖かくなり、周期的な気温の変化を繰り返すことが多くなります。このため、日本においての『三寒四温』という言葉は、本来使われる冬ではなく、寒暖の変化がはっきりと現れる春先に用いられるようになりました。

最近の気候変動で三寒四温が当てはまるかどうかは別として、筆者はここ数日、花粉症の症状に悩まされています。目がかゆいのと鼻水が止まりません。春の訪れを感じながら、悪戦苦闘の毎日です。

送別遠足

9日木曜日、送別遠足が実施されました。コロナ禍の影響で多くの行事に制約がかかる中、子供達は楽しみにしていたのではないかと思います。

当日、天気は曇りがちでしたが、子供達は遠足の目的を意識して活動することができ、6年生に対する感謝の気持ちを表現していました。

6年生にとっては小学校生活の中で最後の遠足となり、仲間との時間を噛み締めながら過ごしていたようでした。どのような思いが去来しているのかと思うと鼻の奥がツンとして、健やかな成長を願うと同時に別れの季節が確実に近づいていると思うと切なくなってしまうました。



「親子でチャレンジ強歩会」

4日土曜日、PTA主催の「親子でチャレンジ強歩会」に参加させて頂きました。Aコースは約4.2km、Bコースは約2.2kmに挑戦しました。天候にも恵まれ、最高のコンディションの中で、事故やケガも無く実施できたことに安堵したところです。

さて、この行事単純に歩くだけなのですが学びは非常に大きなものがあります。大人は口々に「4.2kmなんて無理」というのですが、そんなことはありません。参加した子供達がそれを証明してくれています。「何度もうじけそうになる中、仲間の励ましによって完歩した子」「足を引きずりながら、子供には負けられないといって完歩した母親」そして、ゴールし手を取り合って涙する家族やサポーター達。すべてが映画のシーンのように感じました。

参加者はこの行事によって学んだことを、これからの生活に活かしてくれることでしょう。最後に、参加した子の言葉の一部を紹介します。「校長先生の言っていた『お金では買えない大切なもの』を、歩き通したことで本当に手に入れることができました。大切にします。来年も参加します。」この子が今後どのように活躍してくれるのか楽しみです。

